

本時のねらい

- ・恋の進展を起承転結の四連で描いた島崎藤村の詩「初恋」を基にショートストーリーを創作する活動を通して、詩の描写や行間に込められたイメージを細かに検討することで、豊かに詩を味わうことをねらいとする。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・本時は班活動をベースにしなが、より広く意見を集めたり、多くの生徒と交流したりできるようにするため、授業内で生徒同士のコミュニケーションツールとしてチャットを取り入れた。それにより、班活動を越えた生徒同士の協働を促すことをねらいとした。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ NHK for School
- ・ ロイロノート
- ・ Live ! アンケート
- ・ 画像生成 AI

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5 分)	○本時のめあてと授業の流れを確認し、課題設定を行う。 詩の描写を基に起承転結のストーリーを作ろう！ 【写真 1】	・学習計画表を「ロイロノート」で記入する。その際、同じ班のメンバーと相談するのも良い。
展開 (40 分)	○詩の細かな描写まで着目し、その内容について考え、詩を基にしたショートストーリーを班で考える。 ○なぜそのようなストーリーの描写になるのか、その根拠を説明するよう、詩の描写を基にしたカードを作る。 ○早く終了した班は、ストーリーの挿絵を生成 AI で作成する。または、次回の発表に向けて、発表資料の見直しと練習を行う。 【写真 2】	・「Live ! アンケート」によるチャットを授業内のコミュニケーション手段として加えることで、班のメンバーやタイミングに囚われない意見交流ができる。 ・各班の課題に応じて、「NHK for School」の動画を参考にできるようにする。
まとめ (5 分)	○本時の活動や交流で分かった他班の様子をふまえて、本時の活動の振り返りを行う。 ○本時の反省点を踏まえて、班で次回の活動計画を相談する。 【写真 3】	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】本時の課題を分解して考え、学習の進め方を決めます。



【写真 2】チャットを活用してつながることで、盛んに意見交流が生まれています。



【写真 3】本時の学びを学習計画表で振り返り、次回の学習の進め方を班で相談しています。

児童生徒の反応や変容

- ・班活動をベースとしつつも、他班の活動内容を参照できる機会を設けるようになってから、これまで学習に積極的でなかった生徒も、気心の知れた友人と交流し、積極的に学習に取り組めるようになった。さらに、授業者や仲間に分から話しかけるのが苦手な生徒も、今回「Live ! アンケート」を利用することで、気軽に疑問や悩みを共有しやすくなり、他者の意見を参照しながら課題を解決できるようになっていた。また、悩みとアドバイスが学級全体に共有されることで、班としての活動も活性化していたように感じる。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・リアルタイムアンケートシステム web サイト（「Live ! アンケート」）を活用し、学級全体に対して質問や悩みを投げかけられるようにすることにより、直接声をかけることが難しい場合でも、自分や班の実情に応じて課題解決の方法を選択し、他の班の活動内容を参考にした多角的な視点で自己調整しながら班活動に取り組めるようにした。
- ・画像生成 AI を用いて、ストーリーの挿絵を作成させることで、プロンプトを入力する際に、作品の情景について深く考える機会を持つようにした。